

【七月の言葉（平成三十年）】

すべてのものは移り変わる

変わらないものは何ひとつない

仏教で、比較的よく知られている言葉に「諸行無常」があります。

すべてのものは、原因やさまざまな条件が互いに関係し合つて成り立ち、諸条件に左右されて移り変わっていくものであり、何ひとつとして変わらないものはないということです。

仏教では、人間の心や体も刻一刻と変化しているものであると説きます。ですから、その身や心のどこを探しても、変わることはない実体などというものは存在しません。

すべてのものごとは、一瞬もとどまることなく変化していきます。そして、その一瞬ごとにすべてのものごとは変化しながらかかわり合っているのです。人との関係も固定したものではなく、当然変化し続けています。一人ひとりが輝いて、いまの自分自身と他人のいのちを互いに大切に生きていける関係こそ、人と人が支え合いながら生きていく素晴らしい姿だと思えます。